

製品名: リン酸化 Rb (Ser780) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00822**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 106 kDa; Observed MW: 106 kDa

抗原情報

遺伝子名	RB1
別名	RB1; Retinoblastoma-associated protein; p105-Rb; pRb; Rb; pp110
遺伝子 ID	5925
SwissProt ID	P06400
免疫原	抗血清は、Ser780 のリン酸化部位付近のヒト網膜芽細胞腫由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 751-800

背景

CDK による細胞周期依存性のリン酸化は、Rb 標的への結合を阻害し、細胞周期の進行を可能にします。Rb の不活性化とそれに続く

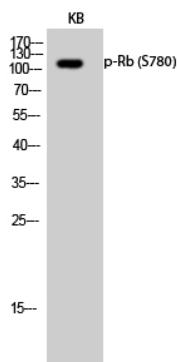
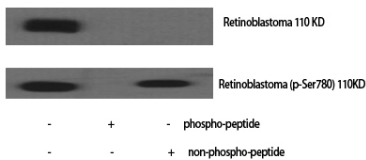
細胞周期の進行には、サイクリン D-CDK4/6 による最初のリン酸化と、それに続くサイクリン E-CDK2 によるリン酸化が必要であると考えられます。in vitro では、様々な CDK/サイクリン複合体の特異性が観察されており、in vivo ではサイクリン D1 が Ser780 のリン酸化に必須です。

研究分野

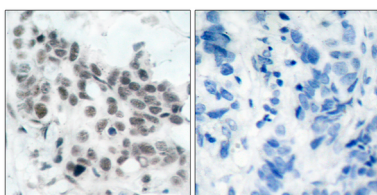
細胞生物学

画像データ

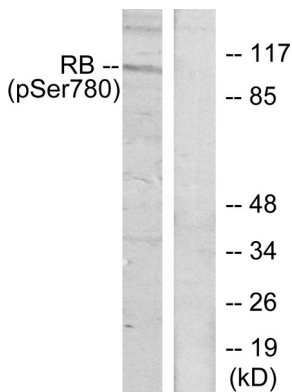
リン酸化 Rb (S780) 抗体を使用した、さまざまな溶解物中のリン酸化 Rb (Ser780) のウエスタンプロット分析。



リン酸化 Rb (S780) 抗体を使用した KB 溶解物中のリン酸化 Rb (Ser780) のウエスタンプロット分析。



網膜芽細胞腫（リン酸化 Ser780）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を使用しました。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプルです。



10% 血清処理した K562 溶解物中の Phospho-Rb (Ser780) を Phospho-Rb (Ser780) 抗体を使用してウエスタンプロット分析します。右側のレーンは Phospho- ペプチドでブロックされています。